時津町は「家読」を推進しています

# たまには テレビをけして

（高学年）　2025年　秋号

発行：時津町立時津図書館

## 家読とは

家族みんなで好きな本を読んで、読んだ本について話す。これが「うちどく（家読）」です。難しいルールは要りません。
家族みんなでルールを決めてはじめてみましょう。

家族で同じ本を読みあったり、おとうさんやおかあさんに読み聞かせをしたりと楽しい時間を過ごしましょう。

### 「みんな　みんな　とってもすてき」

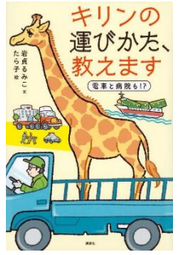
バティスト　ボーリュー／文 チィン　レン／絵
ひがき ゆみ／訳（ひさかたチャイルド）

お医者さんだったおじいちゃんが、人にはそれぞれ“からだの物語”があることを教えてくれた。その人のからだの特徴は、その人が今まで生きてきた証が刻まれているらしい。街を見渡してみると、みんなそれぞれ“からだの物語”があって…。現役のお医者さんが書いた、周りの人、そして自分自身のことを大切にしたくなる本です。

### 「ヨークシャーの丘の幽霊」

マーカス　セジウィック／作
野沢 佳織／訳（徳間書店）

家族で先祖の故郷、ヨークシャー・デイルズにきたジェイミー。でも、それぞれが抱えている悩みのせいで家族はギクシャクしていた。そんな中、ジェイミーは幽霊をみて…。十代の少年の繊細な気持を描いた、感動物語です。




### 「キリンの運びかた、教えます 電車と病院も！？」

岩貞　るみこ／文 たら子／絵
（講談社）

岩手県・盛岡市動物園で生まれたキリンの“リンゴ”は東京・上野動物園にお引っ越しすることになりました。でも、3.5メートルものキリンをどうやって運ぶの!?その他、「鉄道車両」「こども病院」の運び方を含めた３つの“運ぶお仕事”の物語。読んだら、きっと誰かに話したくなります！

### 「わたし、わかんない」

岩瀬 成子／著（講談社）

みんなは私のことを「わかんないさん」と呼ぶ。何を聞かれても、「わかんない」というからだ。だって、パパとママは仲が悪いわけじゃないのになぜ離婚したのかわかんないし、私だって、学校に行きたくないのにどうして学校に行かなきゃいけないのか、何にもわかんないんだもん。
世の中、わからないことが多すぎない？

### 「りりかさんのぬいぐるみ診療所 思い出の花ちゃん」

かんの ゆうこ／作 北見 葉胡／絵（講談社）

りりかさんはぬいぐるみのお医者さん。あるとき、少年がぬいぐるみのトリケラトプスをつれてきました。少年が言うには、このトリケラトプスのまわりにあるものが、ことごとく消えるというのです。りりかさんが、ていねいに調べてみると、このぬいぐるみにはポケットがあったのです。そして、そのポケットは不思議な力を持っていたのです。

### 「ジェーンとキツネとわたし」

アルスノー／絵 ファニー　ブリット／文
河野 万里子／訳（西村書店）

変わり者だと思われているエリーヌはいつもひとりぼっち。居場所がないと感じる時、そっと本を開く。大好きな物語『ジェーン・エア』だ。
ある日、学校のみんなと４泊５日の合宿に行くことになった。友だちがいないエリーヌにとってはゆううつなだけ。でもその合宿がエリーヌの気持ちを少しずつ変えていく…。